



2017年
8・9月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

現在堅信受領者3名、教会を建てる

司祭 バルナバ 瀬山 会治

聖霊と祈りに支えられて

島根県安来市広瀬町は、かつて山陰の覇者として栄えた尼子一族が拠点とした月山富田城の城跡があり、尼子家の家臣・山中鹿之助は、より強くなることを願って「我に七難八苦を与えたまえ」と祈ったと言う逸話が伝えられている祈りの土地です。

今年3月12日に中村主教様により聖別式が行われ、広瀬基督教会は新たなスタートを切りました。この日を迎えることは広瀬教会にとりましては念願であり、それは長い祈りの日々でした。当日は、予想していませんでした。大きく上回る方々がご出席してください、また教区内外の皆様方には色々ご支援ご協力を



いただき、紙面をお借りして感謝してお礼を申し上げます。聖別式には山陰伝道区の教会からもお手伝いをいただき、信徒数3名の小さな教会が、神様の交わりの中にある強い絆で結ばれた信仰者の群

れの一員であることを再確認することができました。聖別式のあいさつで信徒代表の吉村信兄が、かつて中村主教を団長とした英国巡礼の旅に参加した際、カンタベリー大聖堂の礼拝堂で祈っておられるときに広瀬教会再建への強い思いを感じられたと述べられていました。広瀬町と言う小さな町で、聖霊なる神様の働きによって教会が建てられ、これからは神様が共に宣教の働きを進められてゆかれることを実感しました。

広瀬教会の歴史

広瀬基督教会の歴史の始まりは、中海を囲む4つの教会の歴史と重なっています。英国から来られた宣教師たちが、まるでガリラヤ湖を中心に宣教されたイエス様のように町々に福音の種を蒔いて旅をされました。松江市を中心に宣教活動を展開していた英国人宣教師たちが、島根県能

義郡広瀬町を訪れるようになったのは1887年、明治20年の頃からでした。当初は英国人の宣教師が、町の人びとから罵詈雑言を浴びせられたこともありましたが、1892年6月には京都から来られた同志社の神学生がキリスト教の伝道集会を開催したところ、足立文太郎、朝山繁之助の両名と激論となりました。

奇跡が起るとき

たかのような香りを漂わせています。さらに壁は太さの異なる角材で凹凸がつけられており、視覚的にも音響効果に優れています。

しかし、11月にB・F・バックストン司祭よりこの両名を含めた4名が受洗して広瀬の地におけるキリスト教伝道の最初の実りとなりました。その後、広瀬町を大洪水が襲い、貧しく食事も出来ない苦しむ40名の子どものために「博愛学校」が設立され、信徒が教師を務めました。

ランドマークとしての教会

新教会は「広瀬町」にこだわった建築がなされています。入口には、寄贈された絵画や彫刻が飾られており、足立美術館のある町にふさわしい教会となっています。正面外壁と聖卓上部には、たたら職人が打ちたたいた十字架が掲げられており、日本刀を思わせる作りとなっています。また、広瀬町の杉の木を使った礼拝堂は、大自然に包まれ

信徒3名であっても教会は建てられるという一つのモデルとなり、小さな教会に希望を与えることができることを願っています。教会建築によらず、大きな事業をするには信徒数の多少にかかわらず、どんな教会でも牧師と信徒が一致団結する必要があります。教会を強く感じました。教会内部で不和があるとき、足の引つ張り合いが起こり、なかなか計画は進みません。しかし、教会が一つになるとき、教会は神様の体となり、この世に奇跡を起こすことができるのです。

今後は、ランドマークとして地域の人々の中で共に生き、他教会の協力も得て、宣教活動を広げてゆきたいと願っています。そのために皆様方の祈りとご支援を今後もよろしくお願いいたします。

(米子聖ニコラス教会牧師・広瀬基督教会管理牧師・鳥取聖ルカ教会管理牧師・浜田基督教会管理牧師)